

2022年度履修系統図・カリキュラムマップ(看護学科)

【基礎科目】

CP1
学生が自ら学修計画を立て主体的な学びの実践を目指すスタディスキル、プロフェッショナルスキルを育む科目、高等学校との接続を考慮した科目を

CP2
現代社会における諸活動に必要な性の高い基礎的事項の修得を目的とし、基

【主題科目】

CP3
科学的思考の基礎や人間と生活・地域社会の理解、情報リテラシーについて学ぶための主題科目群を設置する。

【専門基本科目】

CP4
専門展開科目を学ぶ基礎となる医学系科目や周辺領域科目として専門基本科目群を設置する。

【専門展開科目】

CP5
生命の尊厳・人権の尊重と倫理観、地域で暮らす人々の看護を基盤に、個別の健康課題・ライフステージに対応できる専門的な知識を学ぶとともに看護実践能力を修得するための科目を

CP6
教養と専門知識を総合した多面的かつ領域横断的な観点から多様な課題を発見し解決する力を身につけ、多職種との連携・協働における看護専門職の役割を果たすことができるよう、演習科目やゼミナール科目を設置す

CP7
看護専門職としての実践力に加え、新たな学修課題や研究課題を発見する能力を身につけるために、事前事後指導を含む現場での臨床実習科目を設置する。

実施方法
①教養科目と、看護の基礎から応用へと段階的・発展的に学修できるよう、開講年次を工夫する。
②各演習科目やゼミナール科目などは少人数編成で実施する。
③課題解決型学習(Problem-based learning:PBL)の手法を取り入れた講義・演習を行い、学生相互の学修効果を高めるよう展開する。
④各科目の授業概要や到達目標、準備学習内容を予め明示することにより、学生の事前事後の学修を促し、学修内容の定着をはかる。
⑤臨床実習は3段階に区分し、第1段階では看護の基礎となる実習を、第2段階では看護の実践を積み重ねる実習を、第3段階では能動的に自己の看護の集大成ができる構成である。加えて、地域における社会資源の活用やネットワークの構築(チーム医療・継続看護)、地域・コミュニティの力を地域活動からアセスメントし、住民の健康を守る看護を展開する。
⑥少人数学修担当制をとり、学修ポートフォリオを用いて担当教員との定期的な面談を実施し、主体的かつ個別的な学修方法が確立できるよう展開する。
⑦総合演習・卒業論文・卒業研究ゼミナールでは、担当教員を中心に、学生一人ひとりの個性や特性を尊重しながら、個別に学習指導・支援を実施する。

| 指定科目の教育内容 | 基礎科目 | | 主題科目 | | 専門基本科目 | | 専門展開科目 | |
|----------------|--|---|---|--|--|----|--|------|
| | 1年 | | 2年 | | 3年 | | 4年 | |
| | I | II | III | IV | V | VI | VII | VIII |
| 科学的思考の基盤・人間と生活 | レクリエーション活動 I【1】 英語 I【1】 英語 II【1】 情報処理演習【1】 基礎演習 I(スタディスキル)【1】 スポーツ【1】 | レクリエーション活動 II【1】 英語 III【1】 英語 IV【1】 医療英語【1】 基礎演習 II(プロフェッショナルスキル)【1】 | スポーツ理論【1】 言葉と文化(英語) I【1】 言葉と文化(中国語) I【1】 | 言葉と文化(英語) II【1】 言葉と文化(中国語) II【1】 | | | | |
| 科学的思考の基盤・人間と生活 | ボランティア入門【1】 ボランティア活動 I【1】 自然科学 I(生物系)【1】 自然科学 III(数学系)【1】 自然科学概論【1】 高齢者福祉論【1】 心理学 I【2】 | データサイエンス【1】 ボランティア活動 II【1】 自然科学 II(物理系)【1】 自然科学 IV(化学系)【1】 障害者福祉論【1】 白山市の自然と文化【1】 美術【1】 日本史 I【1】 日本史 II【1】 心理学 II【2】 | 法学(憲法) I【1】 日本文学 I【1】 | 社会学【1】 法学 II【1】 日本文学 II【1】 統計学【1】 | ソーシャルワーク論 I【1】 介護福祉論 I【1】 | | ソーシャルワーク論 II【1】 介護福祉論 II【1】 医療関係法【1】 | |
| からだの理解 | 解剖生理学 I(総論、運動器、体液・血液)【1,2】 栄養代謝学【1,2】 | 解剖生理学 II(血液循環、呼吸、消化吸収、内分泌)【1,2】 微生物学【1,2】 | 解剖生理学 III(泌尿生殖器、神経系)【1,2】 | | | | | |
| 疾病と治療 | 医学概論【1,2】 リハビリテーション概論【1,2】 | 病理病態学【1,2】 臨床栄養学【1,2】 | 診断治療学 I(内科系)【1,2】 診断治療学 II(外科系)【1,2】 臨床薬理学【1,2】 臨床心理学 I【1,2】 安全管理【1,2】 感染防御【1,2】 | 診断治療学 III(周産期)【1,2】 診断治療学 IV(小児)【1,2】 診断治療学 V(精神)【1,2】 臨床心理学 II【1,2】 カウンセリング演習【1,2】 | 高齢者の心理【1,2】 障害者の心理【1,2】 | | | |
| 保健医療の理解 | 保健医療概論【1,2】 公衆衛生学【1,2】 社会福祉概論 I【1,2】 | 保健医療制度論【1,2】 社会保障制度論【1,2】 石川県・白山市の保健医療事情【1,2】 社会福祉概論 II【1,2】 | | 看護マネジメント論【1,2】 疫学・保健統計入門【1,2】 | | | | |
| 基礎看護学 | 看護概論【1,2】 | 看護理論【2,3】 看護倫理【1,2】 基礎看護学方法論 I(生活の援助技術)【2,3】 基礎看護学方法論演習 I(生活の援助技術)【2,3】 | 基礎看護学方法論 II(診療の援助技術)【2,3】 基礎看護学方法論演習 II(診療の援助技術)【2,3】 看護過程論【2,3】 | 看護情報論【2,3】 | | | | |
| 在宅看護学 | | 基礎看護学実習 I(早期体験実習)【2,3】 | 基礎看護学実習 II(療養生活援助実習)【2,3】 | | | | | |
| 成人看護学 | | 地域・在宅看護学概論 I(健康・生活支援)【1,2,4】 | 地域・在宅看護学概論 II(療養・生活支援)【2,4】 地域・在宅看護学実践論【2,3,4】 地域・在宅看護学演習【2,4】 地域・在宅看護学技術演習【2,3,4】 | 地域・在宅看護学実習【2,3,4,5】 | | | | |
| 老年看護学 | | 成人看護学概論【2】 | 成人看護論 I(慢性期・終末期)【2】 成人看護論 II(急性期・回復期)【2】 成人看護過程展開論【2,3】 | 成人看護学演習 I(慢性期・終末期)【2,3】 成人看護学演習 II(急性期・回復期)【2,3】 成人看護学実習 I(慢性期・終末期実習)【2,3,4】 成人看護学実習 II(急性期・回復期実習)【2,3,4】 | | | | |
| 小児看護学 | | 老年看護学概念論【2】 認知症ケア【3】 | 老年看護論【2】 老年看護学演習【2,3】 | 老年看護学実習 I(施設実習)【2,3,4】 老年看護学実習 II(病院実習)【2,3,4】 | | | | |
| 母性看護学 | | 小児看護学概論【2】 | 小児看護学実践論【2】 | 小児看護学演習【2,3】 小児看護学実習【3,4,5】 | | | | |
| 精神看護学 | | 母性看護学概論【2】 | 母性看護学実践論【2,3】 | 母性看護学演習【2,3】 母性看護学実習【2,3,4,5】 | | | | |
| 領域横断 | | 精神保健看護学概論【2,4】 | 精神保健看護学実践論【2,3,4】 | 精神保健看護学実践演習【2,3,4】 精神保健看護学実習【2,3,4,5】 | | | | |
| 看護の統合と発展学習 | | | 災害看護論【3】 国際看護論【3,4】 チーム医療論【3,4】 地域と看護【3,4】 看護学研究法【3】 実践看護学実習 I(地域活動実習)【2,4,5】 | 卒業研究ゼミ I(研究探究ゼミ)【3】 | 実践看護学実習 II(多職種連携実習)【2,4,5】 卒業論文【3】 チーム医療演習【2,3,4,5】 総合演習【2,3,4,5】 看護教育論【5】 | | | |

DP1
教養、専門性、倫理観を兼ね備え、生命の尊厳と人権を尊重し擁護

DP2
看護学に関する基本的な知識と技術を身につけ、地域で暮らす人々への看護を基盤に、個別の健康課題・ライフステージを考慮した看護を実践することができる

DP3
看護専門職としてエビデンスに基づく適切な判断ができ、課題解決のための実践・研究ができる

DP4
地域社会における健康課題を把握し、多職種と連携し協働する必要性と方法を理解して、多様

DP5
保健・医療・福祉の場でリーダーシップを発揮し、看護専門職としての役割・責任を果たす能力を